

授業科目 精神保健福祉援助技術各論

【担当教員名】 酒井昭平	対象学年	3	対象学科	社会・作業
	開講時期	後期	必修・選択	選択
	単位数	4	時間数	60
【概要】 精神障害者と家族が抱える生活上の問題について適切な援助ができるようになるために、それらの問題を理解し、問題解決のための援助技術を習得する。				
【学習目標】 1. 精神障害者を対象としたケースワークの意義・方法について説明できる 2. 精神障害者を対象としたグループワークの意義・方法について説明できる 3. 精神障害者を対象としたコミュニティワークの意義・方法について説明できる 4. 精神障害者を対象としたケアマネジメントの意義とプロセスについて説明できる 5. スーパービジョンの意義について理解し、説明できる 6. 精神障害者の社会復帰施設について理解し、説明できる 7. 精神障害者のセルフヘルプグループについて理解し、説明できる 8. 家族支援の必要性について理解し、説明できる 9. 権利擁護事業について理解し、説明できる				
回数	授業計画又は学習の主題		S80 番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	オリエンテーション／ケースワークについて学ぶ①			オリエンテーション／講義
2	ケースワークについて学ぶ②			講義
3	同上③			講義
4	同上④			講義
5	グループワークについて学ぶ①			講義
6	同上②			講義
7	同上③			講義
8	同上④			講義
9	コミュニティワークについて学ぶ①			講義
10	同上②			講義
11	同上③			講義
12	同上④			講義
13	ケアマネジメントの意義と留意点について学ぶ①			講義
14	同上②			講義
15	スーパービジョン意義と実際について学ぶ①			講義
16	同上②			講義
17	社会復帰施設の運営について学ぶ①			講義
18	同上②			講義
19	セルフヘルプグループとのかかわり・支援の仕方について学ぶ①			講義
20	同上②			講義
21				講義
22				講義
23				講義
24				講義
25				講義
26				講義
27				グループ学習
28				
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所> <発行年・価格・その他>
教科書		精神保健福祉援助技術各論	精神保健福祉士養成養成セミナー編集委	へるす出版 3360円（改訂3版）
その他の資料		適宜配布する		
【評価方法】 出席状況・レポートの提出状況		【履修上の留意点】 ①外部講師を招聘するため講義の順序が入れ替わる場合がある。 ②講義のほかに演習、討議が加わる場合がある。		